

平成21年度「専修学校を活用した就業能力向上支援事業」成果報告書

コース名	若者対象コース		
事業名	「IT関連企業就職に向けた実践型IT技術者育成プログラムの開発」		
法人名	学校法人最上広域コア学園		
学校名	新庄コンピュータ専門学校		
代表者	理事長 村上 國雄	担当者 連絡先	事務長 結城 和則 TEL 0233-29-2121
1. 事業の目的			
<p>平成20年9月のアメリカの金融破綻に端を発した世界的な経済不況は新庄・最上地域の経済界にも深刻な影響を与えており、本地域の電子部品製造・組立て企業をはじめとする、ほぼ全分野の業界において、深甚な雇用調整が行われつつあり、多くの若年の未熟練労働者が失職を余儀なくされている。このような厳しい雇用情勢を踏まえて、本事業の目的は、若年早期離職者等に、IT技術者として必要とされる実践的技能・知識を習得させ（これによって特に中小のIT企業の新人研修の負担を軽減できる）、IT企業への就職を支援するとともに、経済不況下における若年失業者の職業訓練および再就職支援のシステムをモデル化することにある。</p> <p>新庄・最上地域のIT企業、ハローワーク、キャリアカウンセラー、地元自治体との連携の下に、若年早期離職者に、IT企業の即戦力となるための基礎的素養としてのITソフト開発のための実践的技能・知識を短期間で習得させ、これによって、新庄市、山形市、仙台市、首都圏等のIT関連企業への就職を助成・促進することを目的として、実践力を重視した短期ITソフトウェア技術者育成プログラムの開発を行い、その実証講座としての「短期IT技術者養成講座」の名の下に、①「実践力を重視した短期IT技術者養成講座」と②「経済不況下における若年者の再就職支援講座」（ともに対象は若年失業者）を開設し、実施する。</p> <p>講座開設に当たり、受講者満足度3.8（5段階評価）、受講者の就職率50%を目標値として設定した。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①カリキュラムの概要（目的・科目数・内容・期間）			
<p>特に本事業にあっては、若年者の厳しい就職戦線を念頭において、実践学習の重視（プログラミングにおける問題解決能力の育成）、ITパスポート試験対策講座の導入、ジョブ・カード制度の作成と活用の三点を最重点事項とした。</p> <p>開設講座数：2講座          総講義時間数：450時間          開設期間：平成21年10月1日～平成22年2月19日          （内訳）</p>			

### <専門分野>

「実践力を重視した短期IT技術者養成講座」(計378時間)

同講座において学習される科目(6科目)は、次の通りである。

- (1) ROBOLAB 基礎・応用編(27時間)
- (2) ITパスポート概論・ITパスポート試験対策(72時間)
- (3) C言語学習(84時間)
- (4) UML-C学習・実践課題演習(96時間)
- (5) その他の学習(オリエンテーション、プレゼンテーション実習など)(9時間)
- (6) 企業実習(90時間)

### <就職支援講座>

「経済不況下における若年者の再就職支援講座」(計72時間)

同講座において学習される科目(3科目)は、次の通りである。

- (1) 再就職支援(社会人マナー、キャリアカウンセリングなど)(54時間)
- (2) ジョブ・カードの作成と活用(6時間)
- (3) IT企業人事担当者による会社説明会と面談(12時間)

## ②受講者の募集方法(手法・期間・効果)

受講者募集にあたっては、主に下記の方法を行った。

- ・本校ホームページでの告知及び申込受付(<http://sca.core.ac.jp> 7月下旬～)
- ・最上8市町村各戸回覧(7月下旬～)
- ・最上8市町村広報掲載(6月18日掲載依頼)
- ・ハローワークへのチラシ設置(新庄・酒田・鶴岡・村山・山形)(8月上旬～)
- ・山形県若者就職支援センターチラシ設置(8月上旬～)
- ・新聞折込チラシ(最北地区 市内13,550枚 郡部11,800枚)2回
- ・新聞記事掲載(山形新聞)(8月20日)
- ・高校就職指導室への情報提供(早期離職者への情報提供)

募集を何で知ったかという点についてアンケート調査を行ったところ、次のような回答(複数回答可)を得た。

新聞折込(2人)、各戸回覧(1人)、ハローワーク(1人)、公民館の広告掲示(1人)  
母から聞いた(1人)

上記の回答結果を見る限り、最も効果のあった募集手段を特定することは難しいが、まず両親などの親族が新聞折込や各戸回覧などにより募集を知り、募集期間中の旧盆(8月13日～15日)に帰省した青年に受講を勧めるというパターンが重要性を持っているのではないと思われる。

応募状況は、定員20名のところ、7人の応募があったため、選考試験(適性試験および面接)を行い、7人全員を受講対象者とした。

## ③受講者の状況

受講者7人の内訳は下記の通りである。

性別	男性 7人	女性 0人		
年齢層	10代 1人	20代 4人	30代 1人	40代 1人
平均年齢	28.0歳			

学 歴 高校卒 3人 専門学校卒 1人 短大卒 1人 大学卒 2人  
 住 所 地 新庄市内 4名 最上郡内 3名  
 職 歴 7社 1人 3社 1人 2社 1人 1社 2人 なし 2人

いずれも受講開始時点では、定職に就いておらず、アルバイトや小規模事業などで生活しているとのことであった。

<退講者>

10月5日、受講者の一人が退講した。2・3カ月前から始めていたSOHO(小規模在宅IT事業)による仕事の受注量が増え、取引先との信頼関係構築のためにも片手間にはできなくなったためである。

<一部講座受講辞退者>

もう一人の受講者が、体調不良のため車の運転が不可能となり、企業実習(平成22年1月5日~1月27日)の全ての受講を辞退した。

#### ④受講者の意識調査等

本校の実施したアンケート調査によれば、本養成講座(短期IT技術者養成講座)全体の受講者満足度は、3.4(5段階評価)という結果となった。各受講者の満足度を示せば、次の通りである(アンケート対象者は、退講者1人と一部講座受講辞退者1人を除いた5人の受講者とした)。

大変満足 : 1人(20%) 満足 : 2人(40%) 普通 : 0人(0%) 不満 : 2人(40%)  
 大変不満 : 0人(0%)

短期IT技術者養成講座は、「実践力を重視した短期IT技術者養成講座」と「経済不況下における若年者の再就職支援講座」の二つで構成されているが、各講座の各科目の受講者満足度を示せば、次の通りである。

##### ・ 実践力を重視した短期IT技術者養成講座の各科目の受講者満足度

科 目	内 訳		受講者満足度
ROBOLAB 基礎・応用編	大変満足(0人) 満足(4人) 普通(1人)	不満(0人) 大変不満(0人)	3.8
ITパスポート概論・ ITパスポート試験対策	大変満足(0人) 満足(1人) 普通(3人)	不満(1人) 大変不満(0人)	3.0
C言語学習	大変満足(1人) 満足(2人) 普通(1人)	不満(1人) 大変不満(0人)	3.6
UML-C学習・実践課題演習	大変満足(0人) 満足(2人) 普通(3人)	不満(0人) 大変不満(0人)	3.4
企業実習	大変満足(1人) 満足(1人) 普通(1人)	不満(2人) 大変不満(0人)	3.2

・ 経済不況下における若年者の再就職支援講座中の科目の受講者満足度

科 目	内 訳		受講者満足度
再就職支援と ジョブ・カードの作成と活用	大変満足(1人) 満足(2人) 普通(2人)	不満(0人) 大変不満(0人)	3.8

次に、各受講者の各講座終了後の感想の中から代表的な意見を掲げる。

1. 実践力を重視した短期 IT 技術者養成講座の良かった点と悪かった点

- ・ パソコンを知らない私でも、ロボットによる学習はとっつきやすくわかりやすかった。
- ・ 例題をもとに、実際にプログラミングしながら学習できたので、とてもわかりやすかった。
- ・ 私自身、何も IT 知識のない状態からスタートしたけれど、講師の先生の説明が丁寧で、講義についていくことができた。
- ・ 企業実習では、立派な IT 企業の空気に触れられて、いい体験となった。
- ・ 受講者二人一組で実習しなければならないとき、足並みをそろえてやるのが難しかった。
- ・ IT パスポート概論、IT パスポート試験対策では学習量が多すぎた。
- ・ C 言語学習では、理解度の高い受講者が、そうでない受講者に教えるという態勢がつくられてもよかった。
- ・ 講座開始当初、受講者間の交流が浅く、やりにくかった。学習前に交流の場があってもよかった。

2. 経済不況下における若年者の再就職支援講座の良かった点と悪かった点

- ・ ジョブ・カードの作成を通じて、自分のキャリアに自信がもてた。
- ・ キャリアカウンセリングを通じて、キャリアカウンセラーの先生に自分が今まで気づけなかった長所を気づかせてもらった。
- ・ ジョブ・カードがあると就職にある程度有利になると思う。
- ・ 不景気の中、「仕事がない」という話ばかりで、就職に対して前向きな気持ちをなかなかもてないでいる。
- ・ 訓練参加者として、自己評価というものに慣れていない。

⑤受講後の状況（修了者数・就職率）

受講者 7 人中、5 人が規定の出席時間数に達したため、修了証（学校教育法に基づく履修証明制度の対象となる履修証明証）を交付した。

就職状況については、2 月末現在、開講まもなく退講した SOHO による自営者 1 名、県内団体内定者 1 名、求職中の者 5 名という状況である。求職中の 5 名のうち、1 名は入社試験を受け、結果待ちであり、もう 1 名は、二社受験し、不採用の通知を受けている。就職率については、講座終了から 3 ヶ月後の平成 22 年 5 月末にフォローアップ調査を行う予定である。

### 3. 事業の評価に関する項目

#### ①当初目的の達成状況

講座全体についての受講者満足度は、3.4であり、到達目標値3.8を0.4下回った。講座就職（業）者数は、2人（自営による退講者含む）となっている。また、各科目の受講者満足度を見れば、以下の通りである。

科目等	設定値	達成値
ROBOLAB 基礎・応用編	3.8	3.8
ITパスポート概論・ITパスポート試験対策	3.8	3.0
C言語学習	3.8	3.6
UML-C学習・実践課題演習	3.8	3.4
企業実習	3.8	3.2
再就職支援とジョブ・カードの作成	3.8	3.8
就職(業)率	50%	28.6%

#### <反省点>

- ・ ROBOLAB 基礎・応用編、C言語学習の受講者満足度は、3.6以上であり、ロボットを動かしながら、試行錯誤の中でプログラムを組んでいく手法は、初心者にわかりやすい教育手法であることが確認された。ただ、UML-C学習・実践課題演習については、C言語の習得に今一步の受講者には、やや難しい科目となったようである。
- ・ 本講座全体の受講者満足度を押し下げたのは、ITパスポート概論・ITパスポート試験対策(3.0)、企業実習(3.2)の2科目に対する評価である。これについては、若干の分析が必要である。

第一に、ITパスポート概論・ITパスポート試験対策に関する講義に対する受講者の不満として、「学習量のわりには、時間が不足していた」という声が大きかった。ITパスポート試験は、情報処理技術者試験におけるレベル1の国家試験であり、対象となる人材像として「職業人として備えておくべき、情報技術に関する共通的な基礎知識を習得した者」とされ、平成21年度春期(4月)よりスタートした。確かに、ITパスポート試験は、ソフト開発技術者の知識水準からすれば、低レベルかもしれないが、しかし、その出題分野は広く、IT技術を利用する管理事務のほぼ全分野にわたっており、管理事務に関する幅広い知識が要求される。特に、ストラテジ系と呼ばれる出題分野には、経営組織論、品質管理、在庫管理、会計・財務など、実務経験のない者にはとっつきにくい項目が含まれている。この点は、もっぱらプログラミングに関する深い知識を要求する基本情報技術者試験(レベル2)とは異質な難しさといえる。端的に言えば、ITパスポート試験は、「何でも広く浅く」学習することに適性のある学習者には適合していると言えるが、こうした幅広い学習が不得意な学習者には、見かけ以上に難しいテストとして感じられるのではないかと思う。

反省点としては、ITパスポート試験対策のために、より多くの時間を割いて、会社や事業所における種々の管理事務の必要性と現状についての理解を深めるような指導をすれば、もっと魅力的で効果的な講座となったのではないかと考えられる。講座実施機関たる本校としても、「情報処理技術の水準から見れば、ITパスポート試験は基本情報技術者試験より易しい」という先入観を捨て去らなければならない。

第二に、企業実習に関して言えば、受講者全員が「IT企業の空気に触れることができてよかった」など、プラス評価をしているものの、「作業についての指示がよく理解できなかった」など、企業実習について自分なりにあらかじめ抱いていたイメージとは異なる、というような印象を持つ受講者もあったようである。

反省点としては、企業実習に入る前に学校は、「企業から何をしてもらおうのか」という視点ではなく、「IT企業にはどんな人材が求められるのか」などの視点から、「企業から少しでも自ら学び取るんだ」という明確な自覚をもたせて、受講者のモチベーションを高める努力をすべきであったと考えている。

#### <ジョブ・カードの作成と活用>

本年度の講座において初めて、ジョブ・カード制度が導入された。ジョブ・カード様式1~5(履歴書、職務経歴書)については、キャリアカウンセラーの指導の下で作成され、また、その様式6(評価シート)については、実習実施企業(地元のIT企業2社)によって作成された。

特に重要なものは評価シートであり、受講者(訓練参加者)の職業能力に関する自己評価と企業評価が記載された。ジョブ・カード自体、本校も企業も受講者も、そしてキャリアカウンセラーも初めての経験であり、若干の混乱もあった。自己評価に関しては、「私自身、自己評価というものに慣れておらず、心の中ではA評価だと思っても、おこがましいと感じて、ついB評価を選んでしまう」というような受講者の戸惑いがあり、また企業評価に関しても、「1カ月程度の企業実習で、企業は受講者についての的確に評価できるのか」という受講者の懐疑も見られた。

ジョブ・カードの利用予定に関しては、「ジョブ・カードは、ある程度、就職に有利となる」として積極的姿勢を見せる受講者がいる一方、「求人側企業から特に要請のない限り、利用する機会はないだろう」とする消極的な受講者もあった。

本校は、本講座終了後も、受講者の就職に関するフォローを行う中で、ジョブ・カードの積極的活用について指導していく必要性を感じている。ジョブ・カードは厚生労働省により強かに推進されてきたにもかかわらず、本地域(新庄・最上地域)は、まだジョブ・カード後進地域といってよい。その点で、本講座によるジョブ・カードの導入の意義は決して小さくはないと評価している。

## ②事業の成果及び改善点

本事業の主な成果は次の通りである。

1. 若年早期離職者等に、IT技術者として必要とされる実践的技能・知識を習得させ、IT企業への就職を支援する短期の実践型IT技術者育成プログラムを開発し、実施した。この育成プログラムは、IT技術者の育成、ビジネススキルの育成、企業実習、ジョブ・カードの作成と活用、就職支援という五つの要素を包含する職業教育プログラムである。
2. ETロボットを利用したC言語学習、UML-C学習・実践課題演習によってプログラミングにおける問題解決能力を高めることを目的とする、IT技術者育成のための教育プログラムを開発し、実施した。
3. 昨年(平成21年)にスタートしたばかりのITパスポート試験対策のための教育プログラムを開発し、実施した。
4. ジョブ・カード後進地域である新庄・最上地域においてジョブ・カード制度を本格的に導入し、本校・企業・キャリアカウンセラーの連携の態勢を確立した。

本事業において改善すべきものと思われる諸点を挙げれば、次の通りである。

1. 講座の当初において、アイス・ブレイキングの時間を十分に設け受講者間の交流をはかるべきこと。
2. 受講者同士で教え合うチーム・ラーニング(team learning)の方法を更に徹底すべきこと。

3. ITパスポートの資格取得のために、ITパスポート試験対策（概論を含む）の講義時間を1.5倍程度（100時間程度）に延長し、IT技術を利用した種々の管理事務に関する知識を深めさせる必要のあること。
4. 企業実習およびジョブ・カード作成に関しては、本校がイニシャチブをとって、企業・キャリアカウンセラー・受講者間の良好な連絡を確保すべきこと。
5. 本校は、企業実習において、受講者（訓練参加者）のモチベーションを高めるために、「企業実習から何を学ぶのか」という点についての各受講者の自覚を促すような十分な指導を行うべきこと。

### ③次年度以降における課題・展開

#### 1. 課題

本事業において、大きな課題と言えるのは、ITパスポート試験対策とジョブ・カードの作成・活用の問題である。

第一に、ITパスポート試験には、プログラミング関連知識だけでなく、品質管理、会計・財務、法務、経営戦略マネジメント、技術戦略マネジメント等の管理事務に関連する幅広い知識が要求される。

平成21年4月に行われた第1回のITパスポート試験の合格率は70%を超えているものの、合格者の平均年齢は29歳強であった。このデータを見る限り、合格者の大半は実務の一線で活躍している事務担当者とするべきであり、初学者にもチャレンジしやすいテストとは言い難い。それゆえにこそ、初学者を対象としたITパスポート試験対策のための新たな教育カリキュラムの開発と充実が急務といえる。

第二に、前述のように、本地域はジョブ・カード後進地域といってよく、本校のような本地域の専門学校、企業、キャリアカウンセラーには、ジョブ・カードに関して不慣れな点がある。「IT企業に就職した実績がない者にとって、IT企業での実習とこれに基づくジョブ・カードが、IT企業就職経歴に相当するキャリアを形成していく」ことを受講者に理解させ、企業実習へのモチベーションを高めさせるには、ジョブ・カードに関する深い知識と経験が不可欠である。本事業のような実践事業を契機として、本校は、ジョブ・カード制度に関する知識・指導技術を深めるとともに、本地域にあってジョブ・カードの普及のための啓発活動を行っていく必要がある。

#### 2. 展開

第一に、深刻な経済不況の中、いまだ雇用情勢の好転の見られない本地域にあっては、若年離職者のための職業教育は更に重要度を増すものと予想される。本年度の育成プログラムを修正・発展させて、仮称「若年者のための短期IT技術者養成講座」（期間3ヶ月程度）を有料で開設することを検討中である。

第二に、本年度の育成プログラムをモデル化して、本校以外の全国の情報系の専門学校における若年離職者等を対象とするIT技術者養成講座の開設のためのノウハウを提供する予定である。

第三に、今般の経済不況は、本校の学生（専門学校生）の就職活動に深刻な影響を与えている。本年度の育成プログラムのうち、少なくとも、キャリアカウンセリングとジョブ・カードの作成・活用に関する教育プログラムは、来年度卒業予定の本校学生に対する就職指導・支援においても導入する予定である。

#### ④成果の普及

本年度、開発した「IT関連企業就職に向けた実践型IT技術者育成プログラム」は、主として事業報告書および本校のホームページ(<http://sca.core.ac.jp>)等を通じて、全国の情報系の専門学校等に普及させていく方針である。